

令和6年度 第1回三郷市地域福祉計画推進懇話会 会議録

会議名	第1回三郷市地域福祉計画推進懇話会	
開催日時	令和6年10月21日(月) 午後1時30分から	
開催場所	三郷市健康福祉会館5階 職員研修室	
出席者氏名 (敬称略)	議長	小橋 恒夫
	委員	小橋 恒夫、大熊 正道、中田 智巳、外門 光志、石出 順一、吉田 鈴江、 長尾 沙也香、茂木 聡美、矢口 明美、阿部 廣美、柴田 千晶、 川島 明、中村 有美
	事務局	福祉部：横田部長(委嘱書交付式終了後 退席) ふくし総合支援課：森理事、高橋参事、富安主幹、富山主査、古谷主任
	記録者	事務局 富山主査、古谷主任

発言者	会議内容
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 三郷市地域福祉計画推進懇話会委員委嘱書交付式</p> <p>3 会長及び副会長の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 ・委員自己紹介 ・事務局職員紹介 ・会長、副会長選出 <p>4 あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長、副会長挨拶 <p>5 事項</p> <p>(1) 第4次三郷市地域福祉計画の概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき、事務局から説明。 <p>[質疑なし]</p> <p>(2) 令和5年度地域福祉計画関連事業調査の報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき、事務局から説明。
議長	<p>それでは、ただいまの報告について、ご意見やご提案等がございましたら、 挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。</p>

委員	<p>民生委員を務めているが、最も現場に近い位置にいると考えている。パイプ役として様々な活動を行っているが、関連課に繋ぐ際、例えばふくし総合支援課に繋ぐべきか、長寿いきがい課に繋ぐべきか、問題が発生した際には迷うことが多い。</p> <p>その際、最も頼りにしているのは地域包括センターである。彼らは地域の事柄について非常に広範囲に精通しており、家族の状態についても詳しく、知識も豊富である。しかし、何よりも彼らが多忙であり、視野が広すぎるのが常に問題であると感じている。したがって、地域包括センターをさらに充実させることが望ましいと考える。</p>
事務局	<p>地域包括支援センターにおいては、地域の皆様の生活に寄与するため、保健師、ケアマネージャー、社会福祉士の三職種が関与し、ケアを行っている。</p> <p>これが更に充実することにより、皆様の生活の幸せに繋がると思っている。</p> <p>また、地域包括支援センターの計画は、三郷市の高齢者福祉計画及び介護保険計画に基づき進行しているので、現在担当している長寿いきがい課の者に貴重なご意見として伝える。</p>
委員	<p>災害時の対策の促進に関する件について申し述べる。三郷市においては、最近総合防災訓練を実施したところであるが、地域における災害時の対策は、実に困難であると考え。高齢者の避難については、特に能登の地震や水害の事例を鑑みるに、さらなる注力が必要である。三郷市では水害が懸念されるため、私も高齢者医療に関与している立場から、「水害が発生した際には、避難が不可能である」との懸念を職員が語ることが多い。したがって、避難の実施や、特に高齢者が多く居住する団地において、避難指示を如何に出すべきか、非常に難しい問題であるが、これらの対策をしっかりと講じていただきたいと考えている。</p>
事務局	<p>地域福祉計画の中には、避難行動要支援者制度等が含まれているが、現実には各避難所において避難所運営委員会が設置されている。これらの避難所は、学校等の様々な場所に存在し、学校関係者や市の職員、特に危機管理防災課から避難所運営担当職員として毎年選出され、これらの関係者と共に、いざという時の手順について話し合いを重ねている。この取り組みが、実際に地震が発生した際に大いに役立つものと考えている。</p> <p>我々ふくし総合支援課でも、危機管理防災課や関係課と協力し、避難行動要支援者名簿の作成を行い、町会様との協議を経て、協定を結んでいる。現在、協定を締結している町会は96町会に上り、多くの町会と連携している。</p> <p>また、先ほどご指摘いただいたように、民生委員の皆様とも協定を結んでいる。民生委員の皆様には、自身の担当地区における避難行動要支援者名簿を把握いただき、様々な形での避難支援に関する共通理解を深めていけるよう努めてまいります。</p>
委員	<p>この場に、要支援者に関わる各町会の町会長がいるが、各町会は積極的に取り組んでいるものと考えている。要支援者の担当には班が存在する。例えばこの方にはこの人が担当となるといった形で決定する必要がある。町会もこのような形を取っているところが多いのではないかと思います。</p>

委員	<p>要支援者名簿をお預かりしても、町会の役員、本部役員においては、名簿に記載されている方々の名前は知ることができても、その顔を知ることができないというのが実情である。</p> <p>我が町会は、一つの班が最小単位となっているが、その班員はわかるものの、班員以外は、小さな町会でありながら、やはり顔が見えない。このような問題については、民生委員の方々が非常に努力されていると思うが、それ以外の方々の状況は把握できていない。また、要支援者名簿も公開できないため、我が町会として名簿を作成すること自体には注意を払っている。</p> <p>敬老会の名簿については、70歳以上の元気な方からそうでない方まで様々な状態の方がいらっしゃるが、そういった方々の名簿を集めることにより、地域の人々に70歳以上の方々の状態を知ってもらう努力をしている。</p> <p>公助については、実際の場面では期待できないというのが実情である。全体には当然回ることはできないと思うので、やはり自助と共助を大切にしていかなければならないと考えている。</p> <p>町会を代表して来られた方々も同様の思いを抱いているのではないかと思う。他に何かあれば、お話を伺いたいと思うが、いかがであろうか。</p>
委員	<p>今、委員が述べられた通り、要支援者の避難及び把握については市から指示を受けて実施しているが、実際の顔が見えないという点については、まことにその通りであると感じている。</p> <p>また誰が担当となっているかという件について、役員間で話し合った際には、高齢化が進んでおり、役員自身が助かることが大変であるとの意見が出た。実際に共助や互助をどのように進めていくべきか、大変悩んでいる。</p> <p>コロナ禍において、このような動きがなかなか進まない中で町会長に就任し、以前の受け渡しも理解しておらず、具体的にどのように進めていくべきか非常に困惑している。こうした状況において、何かご指導を賜りますと幸いであり、その内容を町会に広める所存。災害が増加している現状に心配しており、ぜひこの点について学ばせていただきたい。</p>
委員	<p>私の地区では、マンションが多くあり、マンションには管理会社が存在し、各棟には自治会及び理事会が設置されている。</p> <p>しかしながら、個人情報に関する問題が非常に厳しくなっており、管理会社は入出戸する住民を把握しているものの、理事会には入出戸の情報が月に一度提供されるだけであり、実質的な把握には至っていない。</p> <p>私自身、自治会と理事会の協定に基づき、管理会社の住居名簿を申請し、閲覧を許可されたが、情報が古く、整理されていない状態にある。</p> <p>また、個人間の情報のやり取りや連携に関して、管理会社と建物を管理する理事会、さらに人々の世話をしている自治会との関係は良好であるものの、個人情報に関しては問題が多く、状況が悪化している。狭いエリアにおいて私の担当する151戸の住民については、要支援者をほとんど把握している。コロナ以前には、個別に訪問し、やり取りがあったが、コロナの影響で訪問が難しくなり、高齢化が進行している。そのため、元気な方ばかりではなく、急にお亡くなりになる方もいらっしゃる。</p> <p>我が地区には老人クラブも存在するが、2600戸中約40人程度しか参加していない。なぜ少ないのかと申すと、高齢者は自身がシニアであることを認めたくないという状況があるためである。このような温度差が存在する中で、様々なイベントを開催し、顔を出してくれるよう促しているが、あれこれと工夫を</p>

凝らしても進捗は芳しくないのが実情です。

委員

障がい者の方々に関しては、データによると東日本大震災においても、一般の方々の2倍の亡くなる率が報告されている。このような状況を踏まえ、市連協では防災に力を入れ、学習会を開催し、市の方とも福祉避難所の状況についてやり取りをしている。現在、いくつかの取り組みが進んでいるが、障がいの特性により、多様なタイプの方がいらっしゃる。そのため、災害に遭遇した際に、自宅に留まることができる場合であればいいのが、避難所に避難しなければならない場合の対応が常に懸念事項として挙げられる。

また、日常生活においても、支援を必要とする方々が多数存在する。しかし、障がい者に関連した支援団体や事業所が少なく、頼もうとしてもなかなか頼めない状況にある。人手不足は、恐らく高齢者についても同様の問題があると考えられる。生まれ育った地域で暮らし続けたいと願っても、支援を提供してくれる団体が少なく、増加しないことが大きな悩みである。

さらに、障がい者のこどもを抱える若い親世代も多くいるが、高齢化が進む中で、自らの身も大変である一方で、我が子が50歳や60歳になった際の問題についても懸念が高まっている。地域包括支援センターの方々から多大なご支援を受けており、親子共々、どのように支援を活用すればよいかについて助けてもらっているとのことで、委員も発言していた。地域包括支援センターの役割は非常に重要であり、学校区に設置されていることから、相談にも応じられる。また、支援を提供する事業所を市内に増やし、老人であっても障がいを抱えていても、様々な支援が受けられる町であることを望んでいる。

事務局

避難所に関しましては、我々はその分野において専門家ではなく、明確なお答えを申し上げることができかねる。しかしながら、市内におきましては、福祉避難所が大変重要視されており、徐々に設立が進められている。

また、一般の避難所においても、大規模な施設では、特定の部屋を福祉避難所とするなど区分けする取り組みも行われており、こうした進め方も徐々に実施されている。まだ不足している点も多くあるので、このご意見を危機管理防災課にお伝えさせていただく。

委員

小学校も避難所となる。学校が避難所となる場合、休校対応となるため、前回のよう子どもたちが在校中に避難所に指定されると大変困難であることを感じている。しかし学校は「誰一人取り残さない」という理念を重視しており、在校中に避難所となった場合には、子どもたちを保護者に引き渡さなければならない。この点については保護者に伝えている。

三郷市には川があり水害が非常に恐ろしいものであると、こちらに来てから強く感じている。しかし、行政が非常に協力体制をとって市の職員が学校の避難所対応をしてくださるため、校長としては、市の職員の方が避難所を開設してくださることに感謝を感じている。

2年前に一度避難所になったことがあり、夜は来られず、次の朝に到着した際には50名ほどの方々がいらっしゃっていたと伺い、片付けを手伝った。学校が必要とされているという実感を持っており、市の担当の方々もそれぞれ対応してくださっていることを強く感じている。

委員

当センターにおいて、最初の相談の際には、その方の緊急避難場所についてお伺いしている。ただし、場所は把握しているが、緊急時にどこにいるかということも関わっているため、形上、その方の住所に基づく地域の避難場所として認識している。このため、なかなか難しい点もある。

また、先ほどの災害時に関するお話において、我が施設においては、皆さま要介護状態で利用されているため、そのような方々がいかに避難すべきかという点が重要である。私たちは171を利用し、居宅のケアマネージャーに連絡を取っており、当方で録音した内容を171にかけると、その利用者が現在ここにいるということをアナウンスするシステムを考案中である。

居宅には各地域にケアマネージャーが必ずおり、要介護・要支援の方には必ずケアマネージャーがついている。そのケアマネージャーが作成する計画書には、八潮や吉川のような緊急避難時に関する一文が記載されているが、三郷市においてはまだ、居宅のケアマネージャーの把握は十分ではない。ただし、我が施設には八潮や吉川のケアマネージャーがいるので、皆さま必ず計画書に緊急避難場所や緊急時の連絡先を記載していただいている。

これは国から示されたものではないが、三郷市においてもその計画書にケアマネージャーの連絡先を記載すると、また異なる状況が見えてくると日々感じている。次回の会議までに近隣のケアマネージャーのお話を把握し、さまざま調査を進めておきたいと考えている。

事務局

個別避難計画において、対象者が作成する避難場所や、災害時に誰が助けるかを記載したものが存在するが、ケアマネージャーの氏名等はその中に記載されていない。ただし、国の方針においては、個別避難計画を策定する際にはケアマネージャーを関与させることが望ましいとされている。この機会に良好な関係を築けたと考えているので、今後、個別避難計画を策定する際にご助言をいただけたらと思う。

議長

事項3、その他について事務局から説明をお願いします。

事務局

事務局からの説明の前に中村委員よりご報告がある。

委員

皆さまご存知の通り、三郷市の人口は2025年以降減少傾向をたどると伺っている。少子高齢化の進行はどうしてもなく、人口減少を控えた2025年に向けて構築予定の福祉の仕組みには、多くの課題が山積していると言える。今できることとして、高齢者の増加に対して、第一に要介護状態になる時期を遅らせること、第二に要介護状態になっても地域で支え、高齢者の役割を創出することが喫緊の課題であると私の周辺では感じている。これが叶えば、福祉のマンパワー問題の解決に寄与し、子供の支援体制も構築できるかもしれません。現在の人口資源を活かすためには、仕組みが重要であり、定着には時間を要する。

ここで、高齢者が福祉を受ける立場、提供する立場の両方で三郷市にいられるような仕組みを早急に構築し、実践できる運営の見える化を求めます。また、市民からの声として資料を配布させていただいたので一読いただきたい。

さらに、福祉は防災と深い関わりがあると考えております。今回、私は三郷市の市民企画講座において、避難所運営ゲームを学ぶ会を開催いたします。もしご興味のある方がいらっしゃいましたら、お申し込みいただき、一緒に考える時間を作ればと思っています。

事務局

その他 ① 「民生委員・児童委員協議会一斉改選について」説明
[質疑なし]

その他 ② 「本日の報償金の支払い方法について」説明
[質疑なし]

6 閉会
・閉会挨拶：副会長